



# エクシオグループ株式会社の特定技能 外国人受入れについての取組み

エクシオグループ株式会社

## 1. はじめに

本年4月15日に、当社にフィリピン国籍の外国人5名が入社しました。彼らは、特定技能外国人制度<sup>(※1)</sup>に基づく在留資格「特定技能1号」の資格を取得しており、これから当社でアクセス関連の工事に従事し、技術・スキルを習得して、当社社員として活躍を期待している人財です<sup>(※2)</sup>。

当社グループは、「2030ビジョン」において、「ESG経営の実践」を持続的成長に向けた3つの挑戦の1つとして掲げ、ダイバーシティ&インクルージョンを積極的に推進しています。

その一環として、在留資格「特定技能」に基づく外国人財の採用を進めてきました。さらに、新たな外国人財が特定技能評価試験に合格して日本へ入国できるよう海外での研修・試験の環境を整備し、特定技能外国人の円滑な受入れの促進を図るプロジェクトへの参画も行っています。

本稿では、フィリピンからの特定技能外国人の採用と、本年2月に実施したインドネシア人講師の育成の取組みについて、ご紹介します。

## 2. フィリピン特定技能外国人採用の取組み

### (1) 試験合格に向けて

2019年4月1日より人手不足が深刻な産業分野において「特定技能」での新たな外国人財の受入れが可能となりました。当社は元請企業として、特定技能外国人の活用のみならず、受入れに関わる諸手続きや生活支援等に関するノウハウを蓄積し、グループ各社へ展開することを目指し、取り組んでいます。

将来海外での活躍も視野に入れ、フィリピン所在のグループ会社MGエクシオと協力して人財の発掘を行い、

※1：特定技能外国人制度

深刻化する人手不足への対応として、生産性の向上や国内人材の確保のための取組みを行ってもなお人材を確保することが困難な状況にある産業上の分野に限り、一定の専門性・技能を有し即戦力となる外国人を受け入れるため、在留資格「特定技能1号」および「特定技能2号」が創設されています（2019年4月から実施）。

[https://www.moj.go.jp/isa/policies/ssw/nyuukokukanri01\\_00127.html](https://www.moj.go.jp/isa/policies/ssw/nyuukokukanri01_00127.html)

※2：関連記事Raisers2021年3月号Company Now参照

MGエクシオ社員である研修生に日本語能力試験、（一社）建設技能人材機構（JAC）<sup>(※3)</sup>が実施する特定技能評価試験の受験対策を行いました。現地での日本語学習と共に、受験用テキストに沿って日本とリモートで技術研修を行いました。360問にわたる漢字で書かれた専門用語を拾い出して振り仮名を付け、読み方・意味を1つひとつ学習しました。また、実技試験に備え、機材をフィリピンに送り、リモート環境で実演をしながら習得しました。

建設分野特定技能評価試験は、海外では2021年3月にフィリピンとベトナムにて実施され、フィリピンで受験した研修生5名は建設分野特定技能1号評価試験（電気通信）に見事合格することができました。

### (2) コロナ禍での出入国手続き

特定技能1号評価試験の合格後、フィリピンからの出入国に関わる手続きを進めました。

まず、フィリピン国からの特定技能外国人採用にあたりフィリピン政府への企業登録が必要になりますが、当社はフィリピン側での手続き支援委託会社が送り出し機関との業務提携関係にあったことから短期間で手続きを進められました。

次に、合格者との雇用契約締結を行いました。特定技能制度において適切な雇用条件となるよう、当社内の就業規則等の確認に基づき処遇を決定しました。

雇用契約締結後、極力早期の入国を目指し、在留資格認定証明書を一刻も早く受領するため、国土交通省の受入計画認定手続きと並行して、出入国在留管理庁による支援計画と特定技能在留資格の認定を大急ぎで進めました。国土交通省からの受入計画認定後にその認定証を提出し、2021年9月に特定技能在留資格認定証明書交付を受けることができました。

各種手続きが完了し、いよいよ出入国となったわけで

※3：一般社団法人 建設技能人材機構（JAC）

（一社）建設技能人材機構（JAC）は、慢性的な人材不足を抱える日本の建設業界に、現場を支える技術者として外国人を受け入れ育成するために、2019年4月に設立された組織です。主に特定技能外国人の受入れサポート、技能評価試験の実施、職業紹介や環境の整備、さらには受入れ先企業のサポートを行っています。

<https://jac-skill.or.jp/>

すが、新型コロナウイルス感染拡大の影響によりフィリピン側での査証申請ができない状況が続いていました。ようやく本年3月に外国人の新規入国規制が緩和され、4月13日に無事5名が入国できました。

### (3) アクセス関連技能の習得と今後の予定

当初は2021年9月頃の入社を目指していましたが、コロナ禍による水際対策で入国規制が延伸されたため、光心線接続、メタルケーブルの手ひねり、クロージャの取付等の技術・安全の知識を入社するまでに身につけてもらうため、座学を中心にリモートでテキスト・動画を使い、繰り返し研修を実施しました（写真1）。また、運転免許取得のため交通安全の学習を行い、日本語レベルを落とさないように、研修を極力日本語で実施するとともに、毎日の朝ミーティングも日本語で実施しました。

日本での生活についてあらかじめできるだけ正しく理解を深めてもらうための工夫として、ビジネスマナー研修会を開催したり、日本語での対話に数多く慣れる目的で、自己紹介練習を兼ねた意見交換会なども開催しまし

た（写真2）。

入社後は、当社中央技術研修センター（埼玉県和光市）にて、約4カ月間程度の予定で、フィリピンでの座学でリモート研修した内容について実物による実技を中心に研修を行っています。技術面もさることながら、特に交通安全を含めた安全対策については新たな発見をしながら生き活きとした様子で研修を進めています。研修後は、現場OJTを開始する予定です（写真3・4）。

日本での生活に慣れることも大変な中ではありますが、研修生たちは周囲と積極的にコミュニケーションを取りながら実り多い毎日を送っています。

## 3. インドネシア特定技能研修講師の育成支援

### (1) JACプロジェクトへの参画

コロナ禍の渡航制限により特定技能外国人の現地育成がなかなか進まないことから、JACにて、日本と往来を必要としない海外での研修・試験の環境を整備し、特定技能外国人の円滑な受入れの促進を図るプロジェクトを進めており、今回インドネシア人の講師研修について、



写真1 リモートでの研修模様



写真3 現在の研修状況



写真2 意見交換会模様



写真4 現在の研修状況

本プロジェクトに参加しているITEAから2021年12月に当社に依頼があり、実施しました。

本プロジェクトは、当社と、グループ会社であるEXEO GLOBAL PTE.LTD.（以下、エクシオグローバル）、DeClout PTE.LTE（以下、デクラウト）とで協力して実現しました。

### (2) 講師候補者の発掘と講習の実施

講師候補については、エクシオグローバルおよびデクラウトの現地での人脈を活用し、日本語能力の高い現地の人財を発掘しました。

講習は、当社アクセス、ネットワーク（電力）、土木、ICT各本部がトレーナーとなり、実施しました（講習概要は表1）。

日本の当社会議室と講師候補者の自宅をリモートで接続し、写真、ビデオだけでなく、実物を使って実機の操作や手作業の実演をライブ中継するとともに、ホワイトボードや英語を使うなど、トレーナーが工夫し、効果的に講習を実施しました（写真5～7）。

この講習を実施するにあたり、フィリピン特定技能外国人にリモートで研修を行った経験が随所に活かされました。

講習の最後に特定技能1号試験にて効果測定を行い、無事合格したことにより到達レベルも確認しました。

### (3) 本プロジェクトの実施にあたり

今後は、今回誕生した特定技能現地研修講師により、インドネシアでの電気通信講習が行われ、特定技能外国人の育成が進むことを期待しています。

最後に、本講習を実施するにあたり、ITEA、先にベトナム電気通信講師育成を実施された(株)SYSKENおよび関係の皆様が実施された結果報告を参考に活用させていただきました。この場をお借りして、御礼申し上げます。ありがとうございました。

表1 講習の概要

|      | 概要  |
|------|---|
| 講習期間 | 2月7日～2月18日  |
| 講習内容 | 有線通信、無線通信、通信土木、交換・伝送における基礎・施工・安全・測定試験、実習（光芯線トレイ収納、LANコネクタ作成等）   |
| 講習方法 | 日本から、①リモート講習（講義および実演）、②インドネシアに実技研修機材を送付しインターネット会議システムを活用し遠隔実習を実施。<br>日本政府による入国規制対策により、講師候補者は自宅での受講となった。 |
| 実施場所 | インドネシア受講者自宅と当社会議室をリモートで接続   |



写真5 アクセス講習

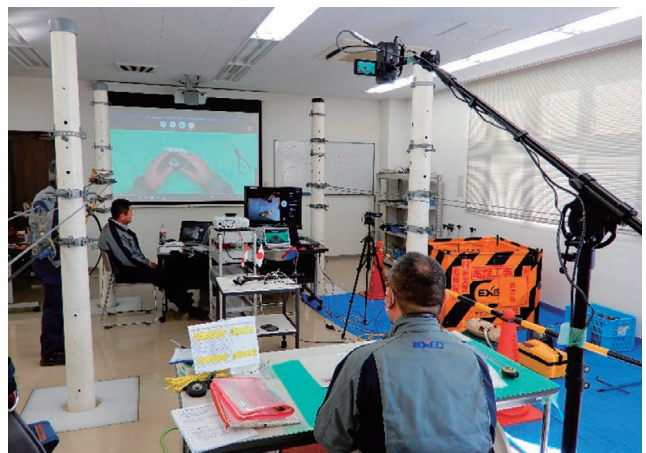


写真6 アクセス講習



写真7 伝送・交換講習